

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100839		
法人名	医療法人社団 ハート		
事業所名	グループホーム きんもくせい	ユニット名	1F
所在地	〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場1673-34		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>午前中は、ホーム周辺の散歩や軽い体操、午後は、買い物や趣味活動、ゴム体操を通して上下肢筋力の低下防止・気分転換に努めております。さらに外部の講師による週1回の歌の会・体操の会、月1回のお茶会、月2回の音楽療法を実施しています。週末には車で買い物やドライブなどに行っております。</p> <p>今年度は、ボランティア受け入れにも積極的に取り組みました。小学生・親子などのボランティアさんが利用者の普段見られない一面を引き出して下さいました。</p> <p>毎年さつま芋作りを行っています。今年度は利用者と一緒に畑を広げさつま芋だけでなく、ナス、インゲン、カボチャ、ミニトマトなどの野菜作りにも挑戦しました。家族の方にもアドバイスを頂きながら成長・収穫を楽しみ、新鮮な野菜を皆で味わう事が出来ました。</p> <p>五感を感じる空間作り、安心して生活できる環境作りを考え、スタッフ一同「ゆっくり、ゆったり心地よく一人一人に寄り添う介護」を実践しております。</p> <p>さらに医療面ではクリニックに併設されているので急な体調の変化にも対応でき、安心して生活して頂けます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>住み慣れた地域と共にその人らしさを大切に「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人ひとりに寄り添う介護」を理念に掲げ、利用者や家族等、職員それぞれの意見を反映し質の高いケアに取り組んでいる。</p> <p>地域の祭事には積極的に参加し小学校から運動会の招待状が届き弁当が用意されている。</p> <p>日々の散歩時には袋を持ってゴミを拾い近隣の人々と挨拶を交わすなど相互的な関係を築いている。</p> <p>芸能ボランティアや小学生、親子などのボランティアが来訪している。</p> <p>朝食後の軽い体操、昼食前の嚥下体操を始め、ゴム体操や音楽療法を取り入れ利用者の機能低下防止に努めている。</p> <p>週末はドライブ日とし利用者の希望にそって遠方の馴染みの場所や買い物に出かけている。</p> <p>季節ごとに種類の野菜を育て、干し芋や干し柿、漬物を作ったりしている。</p> <p>食事の盛り付けや配膳、下膳など利用者は自分なりの役割を楽しんでいる。</p> <p>避難訓練を毎月行いその都度問題点を記録し次の訓練に活かしている。</p> <p>クリニックが併設されているので急な体調の変化にも対応できるほか、寛げる共有空間と馴染みの物のある居室で利用者は理念通りの生活を安心して送っている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に介護の現場やケース検討会などで理念についての話し合いをしている。また、理念を書いた携帯用のカードを全員が持って、理念の実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 職員は事務室に掲示されている理念を毎朝確認するとともに毎月の会議で理念を確認している。 職員は理念カードを携帯し共有するとともに、地域との交流を心がけ実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り、運動会、芸能発表会等)で交流の場を作ったり、近所での買い物、ホーム周辺の散歩や清掃などで地域の方との交流が図れるよう努めている。	利用者は地域の夏祭りや小学校の運動会、公民館での芸能発表会などに出席し地域住民と交流している。 隣接する工場の祭りでは、神輿が事業所を訪問してくれている。 長年にわたり事業所の生け花を生けてくれる方や日頃料理をお裾分けしてくれる方には、利用者が作ったキャラメルでお礼をするなど関係を築いている。 利用者は散歩時に袋を持ってゴミを拾い近隣の人々と挨拶を交わしている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態やホームでの行事、取り組みを報告している。そこでの意見を聞き具体的な話し合いをし、理解と支援を得てサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人理事長、事業所施設長で3ヶ月に1回開催している。 会議では事業所からの報告のほか、委員から地域の情報や意見、助言を得るとともに、時の話題を取り入れて双方向的な会議になるよう配慮している。 会議で出た意見等を職員で検討し、次の目標に活かすように取り組んでいる。 家族等には議事録を毎回送付している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用状況の報告など、地域包括支援センターや市の介護保険担当者と連携を図り、協力関係を築いている。	市が実施しているボランティア活動受入事業で市担当者も同行している。 市担当者や地域包括センターと連携を図るとともに、毎月の利用状況を報告したり、スプリンクラー設置について具体的に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、定期的に見直しする機会を会議等で設け、職員全員が理解できるよう努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 会議や研修会で身体拘束とは何かを正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組む随時職員同士の話し合いの場を持ち意識の共有を図っている。	管理者はマニュアルを作成し会議や研修会で身体拘束について話し合い、全職員で禁止の対象となる行為を把握するとともに、利用者の場面毎に話し合うなど、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議の中で研修の一環として様々なテーマを取り上げ勉強する機会を持っているが、その中で虐待防止の事も取り入れて学び周知を徹底し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会はないが、今後、毎月行っている研修のプログラムに組み込んで学習していきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には、利用者や家族等の不安や疑問を解消できるように時間をかけて十分な説明を行い、理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には毎月の会議「望みの会」やアンケート、家族にはアンケート、意見箱の設置などで意見や要望を聞けるようにしている。また、運営推進会議では両者が意見や要望を外部者へ表せる機会とし、運営に反映させている。	職員は毎月開催する利用者同士の話し合いの場や日々の係わりの中で利用者の意見等を聴くように努めるとともに、家族等からは来訪時や電話の時に意見等を出してもらえるような関係づくりに努めている。 アンケートを実施したり玄関に意見箱を設置し、利用者や家族等の意見を汲みあげるよう努めている。 運営推進会議で利用者や家族等が意見や要望を表せる機会を設けている。 出た意見等は職員会議などで話し合い運営に反映させている。	苦情相談受付窓口は併設事業所の職員となっているが、第三者機関の苦情相談受付窓口を明記することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見、提案などを聞ける環境を作り、可能な限り運営に反映できるように努めている。	管理者は毎日の申し送り時や会議で職員の提案や意見を聞く機会を設け、出た意見等を運営に反映させている。 管理者は職員がいつでも意見を言えるように配慮するとともに、職員にアンケートを実施し意見等を汲みあげるよう努めている。 管理者や職員は研修の重要性を理解し、職員は研修会で学んだ事を提案しサービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して、給与水準、労働時間の把握など、各自が向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、研修委員を中心に毎月1回勉強会を実施している。職員には最低年2回の研修を義務づけ、月の会議で随時、伝達講習や意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、ひたちなか市西部地区のグループホームの集いが年に3回程あり、主に管理者が参加をしている。その内容を会議で職員にも知らせ、勉強の機会としている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に不安、要望等本人への聞き取りを基にアセスメントを行う。サービス開始時にも本人とゆっくり話す時間を設け傾聴し、不安を軽減し信頼関係を築くよう努めている。また、行動、言動にも関心を持って接するよう努めている。利用者によっては体験入居を利用して頂いている。又、入居の際には、ホームでの最初の食事を家族の方と一緒に摂って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでには家族がきたんなく話せる雰囲気面で面会し、納得が得られるまで説明し、信頼関係を築けるよう努めている。又、事前に不安、要望、困っていることなど家族への聞き取りを基にアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントから「その時」まず求められている支援を見極め必要なサービス内容を確認している。又必要に応じて他のサービス事業所に問い合わせをしたり、連携を持ち柔軟な対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯などの日常生活の場面だけでなく、花の手入れや野菜作り、収穫など教わりながら一緒に行うなど、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話などで定期的に本人の近況報告を行っている。職員は、利用者の状況、必要に応じて家族と連絡調整を行い、利用者が安心して過ごせるよう面会、外出の協力を仰いでいる。又誕生会や行事など家族に参加して頂き、職員と一緒に入居者が楽しめる時間を共有して頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人への電話連絡、また年賀はがきや手紙、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。週末のドライブや買い物の機会を利用して本人の馴染みの場所へ出掛けたりしている。	職員は利用者の生活習慣やこれまで培ってきた人や場所との関係の把握に努めている。家族等が同行できない場合は職員が同行し、墓参りや美容院に行けるように支援している。 職員は利用者が友人や知人に電話連絡をしたり年賀状や手紙を出せるよう支援をし、関係の継続に努めている。 週末に実施しているドライブで、利用者がかつて仕事で関係していた港に行くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の会話や関わり方に関心を持ち、良好な関係作りができるよう食堂の席の配置やレクリエーションでの交流に工夫をしている。また、日々の役割分担において、お互いに支え合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、面会を訪れて経過を確認し信頼関係が保てるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者同士の話し合いの場である「望みの会」を月に一度行い、意見や希望を聞けるようにしている。職員は日頃の会話の中から利用者ひとり一人の思いや要望、意向を把握して利用者本位のサービス提供に努めている。	職員は日々の係わりの中で利用者とコミュニケーションを図るとともに、毎月利用者同士の話し合いの場を設け利用者の要望や意向の把握に努めているが、まとまった記録として残すまでには至っていない。意向の把握が困難な場合は家族等の意見を反映させるとともに、職員で意見を交換し利用者本位に検討している。	思いや意向の把握がすべてのケアの出発点であることを認識し、まとまった記録として残すことが望まれる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や利用者本人、家族からの話など、できるだけ多くの情報を集め、これまでの暮らしが把握できるように努めている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を通じて生活リズムや一日の過ごし方の把握に努めている。水分量、バイタルサイン、食事摂取量などの身体状態の観察をよく行い、現状の把握に努めている。	/		/	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や会話の中で、本人の意向、要望や課題を把握する。それについてケース検討会などで利用者や家族、関係者、職員の意見を取り入れ、その人らしく暮らせるような介護計画を作成している。	介護計画は全職員でカンファレンスを開催し、利用者や家族等の要望や医師の意見を取り入れ、毎日のモニタリングをもとに話し合い、利用者がその人らしく暮らせるよう作成するとともに、設定期間毎に見直したり毎日の申し送りで検討し、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。家族等の来訪時に介護計画を確認してもらっている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中に、実践、結果、気付きなどを記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアを併設しており、体操やピアノの日には希望者はデイケア利用者とともに参加し楽しんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店「コープ」やNPO法人で行っている「なかよし」での買い物、イベントの参加などで地域資源を活用し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックを併設しており、24時間いつでも医師と連絡が取れるようになってる。また、他の医療機関に受診時は家族が付き添い、帰所時に状態報告を受けている。	敷地内にクリニックが併設されており、契約時にかかりつけ医の変更を希望する利用者や家族等が多いが、それ以外のかかりつけ医への受診は家族等が付き添うとともに結果を職員に報告している。 受診の際に利用者の状態の説明が必要な場合は職員が家族等と共に同行し適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の変った様子や異常が見られれば併設のデイケアの看護職員にすぐ相談し、受診、看護を受けられる体制作りをしている。状況によっては併設のクリニックを緊急でも受診している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が出来るよう、また利用者の負担をできる限り減らせるよう、利用者の疾病や状態の変化、異常などを観察し、早い段階で併設の内科クリニックを通して入退院時には診療情報を授受し、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人、家族等と話し合いをしている。また併設クリニックと連携を図り、状態の変化に応じての対応、本人、家族との話し合いを随時行い、度々看取りまで行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、状況に応じて利用者や家族等と話し合っている。 併設クリニックと連携を図り、状態の変化に応じた対応を随時利用者や家族等と話し合い看取り介護を支援しているほか、状況によっては他施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応について、研修に行ったり、勉強会を開くなどして、理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月行っている避難訓練、年2回行っている消防署員立ち会いでの総合避難訓練を通して、全員が避難の方法を身に付けられるようにしている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	防災マニュアルを作成し毎月避難訓練を行うとともに、1ヶ月おきに夜間を想定した避難訓練を実施している。 消防署の指導のもと総合訓練を年2回実施している。 避難時間を毎回計ったり問題点や反省点を記録するとともに職員会議で検討し、次回の訓練の課題を決めて取り組んでいるが、災害時に地域住民の協力が得られる体制はできていない。 事業所はオール電化なので、ライターの所持を確認するなどして防火に努めている。	災害時に協力が得られるよう運営推進会議を活用し避難訓練に地域住民の参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、言葉かけや対応など利用者の誇りやプライバシーに常に配慮している。記録もイニシャルで表記し、事務所に保管している。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、日々の係わりの中でさりげないケアを心がけ自己決定し易い言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、常に利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるよう、一人ひとりにゆっくりと時間をかけ働きかけを行うよう配慮している。意欲的ではなく無口な利用者には、選択肢をいくつか提供し選んでいただく等の工夫をしている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体となって、その人らしい生活ができるよう場面作りを行うなど、柔軟な支援をしている。曜日毎にレクリエーションはある程度決まっているが利用者の希望、自己決定を尊重している。又ドライブや散歩など希望にそって支援している。	/		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りのアクセサリや洋服を一緒に選んで着て頂いている。個人の希望に応じて、出張理容サービスを利用することもあれば、地域の理容室、馴染みの美容室を利用することもある。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の食事は栄養士の献立に沿って、職員が調理をしている。週末は、利用者の希望を取り入れながら、利用者と職員で献立を考え、買い物に出かける。利用者の一人ひとりの能力に応じ、職員と一緒に調理、配膳、後片付けを行っている。	平日は栄養士が作成した献立を職員が調理し、利用者は盛り付けなどを担っている。 週末の献立は利用者と職員で考え、利用者はできる範囲で買物や調理、配膳、下膳を職員と一緒にしている。 利用者と職員は静かな音楽が流れる中、会話をしながら食事を楽しんでいる。 自家菜園で栽培した季節の野菜を収穫したり、利用者が漬物や干し芋を作れるよう職員は見守り支援をしている。 月1回の外食は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の食事は栄養士による献立で、栄養バランスに配慮している。食事や水分摂取量を毎回記録し、一日を通して確保できたか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。毎食後の口腔ケアの声掛け、夜間の義歯の消毒などを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々、排尿、排便のチェックを行い排泄の間隔、パターンを把握する。必要に応じて、外出前、食後などにトイレの声かけを行い、排泄の失敗軽減に努めている。	職員は利用者の排泄の自立に向けた支援を重視し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の状態や体調にあわせてトイレ誘導や声かけを行い、自立に向けた排泄ができるよう支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を中心とした予防を心掛けている。野菜や乳製品、繊維質の食物を多く摂るよう工夫し、水分も摂れるよう嗜好に合わせて提供している。また、施設周辺の散歩やホール内の歩行を勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望時間に合わせてゆっくりと入浴を行えるように支援をする。また、花や果物を浮かべて季節や香りを楽しむ工夫をしている。	毎日入浴できる体制ができています。浴槽に花や果物を浮かべて季節や香りを楽しむ工夫をしたり、利用者の体調や希望の時間に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。 入浴を好まない利用者にはタイミングを見計らって興味が出るような声かけをし、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ積極的に参加してもらうことで生活のリズムを整えられるよう努めている。それぞれの体調や希望に応じて飲み物を用意したり、エアコンを利用してゆっくり休息がとれるような支援をしている。眠れない時には、ゆっくり話を聞く時間を持ち、温かい飲み物を勧め安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の理解をし、医師の指示のもとに支援をする。特に、内服薬の変更、追加があった際には、心身状態や症状の変化などの観察、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみを見つけ、意欲を引き出すような支援をする。一人ひとりの生活歴や力を活かし、魚の下処理や食事の準備、洗濯たたみなど、役割をもって生活できるよう支援している。また、車で買い物や外出をして気分転換の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の話し合いにより、行事を決めて利用者個人の希望を取り入れていくよう支援する。一緒に買い物に出かけたり、普段、出掛けられないような場所には、家族と連絡調整を行い、外出の援助を行っている。	午前中は周辺の散歩に行き午後は利用者の希望にそって買い物に出かけている。 週末はドライブの日と決め買い物や利用者の馴染みの場所に出かけられるよう支援している。 普段出かけられない場所には、家族等の協力を得て外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じて金銭管理を支援している。ホームでのヤクルト販売や、コープでの買い物時に本人が支払えるよう支援している。また、自己管理している方もいるが、それ以外の方はホームでお預かりし、買い物の時に財布をお渡すする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に、電話を掛けられるよう支援している。番号を職員が押して、本人が直接話せるよう努めている。手紙も、本人と一緒に出しに行くよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真、新聞、利用者の作品（習字、俳句、クラフト作品）を展示し、明るく楽しい空間になるよう心掛けている。玄関やホールには、季節のお花や畑で収穫した野菜などをバスケットに入れ季節感や清潔感を感じられるよう配慮している。	施設全体が清潔に保たれ照明はやわらかく、共用空間にはダイニングテーブルやゆったりとしたソファが置かれているほか、広い廊下にはベンチ、ベランダにはテーブルと椅子が設置されている。 和室は広く大きな掘炬燵が設置され、利用者の作品の書の掛け軸が展示されている。 共用空間の要所に利用者の絵画や俳句、クラフト作品が展示されているほか季節の花や野菜が飾られている。 新聞や雑誌などが自然に置かれ、利用者が過ごしやすい空間となるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所でも、日当たりのよい窓際にソファを設置し、一人でも寛げる空間を設けている。和室などに腰を掛けて、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう居場所作りに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具を置いたり、家族との写真や絵を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者が今までの生活を継続できるよう、利用者の愛用品や思い出深い物品を持参してもらうよう契約時に説明している。 利用者は居室に家族等の写真や作品、使い慣れた家具、飾り物、位牌を持ち込み安心して過ごせるよう工夫をしている。 利用者同士で作品をプレゼントし合い、各居室に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ホールやトイレに手すりを設置し、「歩く」「立てる」など、出来ることを安全に継続して自立した生活が送れるよう工夫している。また、居室のドアに一人ひとりの好みの暖簾を掛けて、自分の居室がわかるよう工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム きんもくせい

作成日 平成22年6月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	個々の思いや意向の把握をわかりやすく記録として残していない。	個々の意向を把握して記録をする。	本人や家族の思いや意向を個々のノートに記し、まとまった記録として残す。	3ヶ月
2	10	避難訓練に地域住民の参加の呼びかけができていない。	地域の協力体制を築いてゆく。	運営推進会議に地域消防団の参加を働きかける。	6ヶ月
3	23				
4	35				
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。